



とむらかつゆき 戸村勝幸県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

農業所得向上目指して要望!

生産基盤や競争力強化を 農業産出額で知事に質問



本会議場に登壇し、サツマイモの加工食品を掲げ6次産業化を訴える戸村県議

戸村議員 昨

年12月に平成26年の農業産出額が公表され、全国順位は前年の3位から4位になりました。この要因としては、コメの全国的な価格低下に加え、豚や鶏、肉用牛など畜産物の価格が好調だったことから、畜産が非常に盛んな鹿児島県の産出額が大幅に増加したためだと聞いています。

森田知事

本県の農業産出額の増加に向けて、生産力や販売力を強化していくためには、マーケット需要に対応できる戦略的な産地強化や、高収益型農業への転換などを進めることが重要

ですが、その取り組みをしっかりと進めていくことで、生産基盤や競争力が強化され、結果として本県の農業産出額の増加が図られるのではないのでしょうか。そこで伺います。農業産出額の増加に向け、県は今後、どのように取り組んでいくのか。

さまざまな施策を滞りなく実行し、確実に成果を上げることが、農家の所得が向上することに繋がることから、しっかりと対応していただきたい。

6次産業化と販路開拓

戸村議員

農林漁業者が、生産だけでなく、自ら加工や販売にも取り組み、経営の多角化を進める6次産業化は、農林漁業者の所得の向上や地域の雇用拡大を図るとともに、農業を魅力的なものとし、担い手や新規就農者を確保するためにも、重要な取り組みだと思います。

私の地元である香取地域では、畑作農家が落花生加工品を製造・販売する取り組みや、地域の主力品目であるサツマイモの輸出に向けて、

私としては、6次産業化で開発された商品の販路開拓のため、どのような支援を行っているのか。

農林水産部長 6次産業

●県政と香取郡に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

議 事務所
戸村勝幸

〒289-0601 香取郡東庄町笹川い4683-3

TEL0478-86-0246 FAX0478-86-2497

6次産業化について、ぜひ県として指導していただき、販路開拓・拡大をお願いしたい。

要望

林漁業者の販路開拓の取り組みを支援しています。

PR機会の創出

などを行うことにより、農

画の策定に加え、
○商談用冊子の作成や商談
会への出席支援
○「食のちばの逸品」コンテス
トの開催による新商品
PR機会の創出
などを行うことにより、農

facebook

戸村勝幸

戸村勝幸のフェイスブックもご覧ください。▶▶▶

輸出で「攻めの農業！」へ転換を

県産農産物の輸出拡大目指せ



自席からメモを手に再質問する戸村県議

す。

少子高齢化や人口減少による国内市場の縮小が懸念される中、TPPの発効を見据え、今後も積極的に農産物の輸出拡大に取り組む「攻めの農業」への転換を図っていくことが重要と考えます。県では、サツマイモの輸出拡大にどう取り組んでいるのか。

農林水産部長 県では、マレーシアへのサツマイモの輸出促進を図るため、全農千

買ってもらえるのでありがたい」と言った声が聞かれるなど、輸出が所得向上の重要な手段の一つになっていることを、私自身も実感しています。

耕畜連携で所得確保を

戸村議員 次に酪農の振興について伺います。水田でホールクロップサイレージ稲などの飼料を作り、牛に供給するとともに、牛の堆肥を水田で利用するなど、稲作農家と酪農家が連携し双方のメリットを見出すことで、飼料生産のための土地や堆肥の利用先の確保、コメの生産調整、稲作農家や酪農家

の所得確保などの課題を二気に解決できる可能性があるのではないのでしょうか。

本県酪農に係る耕畜連携の現状はどうか。

農林水産部長 水田で稲ホールクロップサイレージを生産することは、稲作農家にとっては稲刈り以降の作業が不要となり、酪農家にと

っては国産飼料を安価に利

葉県本部と協力し、現地で人気のある焼きイモを中心とした初めての本格的なプロモーションを、2月からクアラルンプールで集中的に展開しています。

具体的には、加工品を含めたPRイベントをシヨピンモールで開催したほか、県内企業が製造した焼きイモ機による高級スーパー9店舗での試食販売や、新たに現地の人気動画クリエイターや食に詳しい有名ブロガーなどによる情報発信にも取り組んでいます。

今後は、今回の取り組みで得られた成果や課題を十分に分析した上で、マレーシアの他都市や新たな国・地域への販路開拓を図り、サツマイモのより一層の輸出拡大に取り組んでまいります。

用できるなど、双方にメリットがあることから、耕畜連携の推進は意義のあることだと考えています。

このため県では、

○研修会などにおける各種支援制度の説明と連携への働きかけ

○適性品種の選定や堆肥利用などの栽培技術の指導

○良質な堆肥の生産や効率

的な飼料利用技術の指導などに取り組んでいます。その結果、平成27年の生産面積は、前年から約300ヘクタール増加し、945ヘクタールと着実に増加しました。

圏央道の4車線化を要望

戸村議員 圏

央道の神崎ICから大栄JCT間が昨年6月に開通し、本県と北関東や東北地方が高速道路でつながる新たな広域ネットワークが形成されました。暫定2車線となっている圏央道について、早期に4車線化していく必要があると思うがどうか。

森田知事 圏

央道は、東関道と常磐道が直接結ばれたことにより、つくば・大栄間の交通量が増加し、1日平均で1万台を超える状況となっています。県内の圏央道の周辺地域では、観光施設への入込客数の増加や企業立地の進展など、経済に好循環をもたらすストック効果が現れてきています。

圏央道のストック効果をより高めるとともに、安全で円滑な交通の確保や防災力の向上を図っていくためには、対面交通となっている暫定2車線区間について、早期に4車線化していくことが必要と考えています。

県としては、大栄・横芝間の国の用地取得を最大限支援するとともに、引き続き国や高速道路会社に強く

小見川東庄バイパス

戸村議員 国道356

号小見川東庄バイパスの進捗状況はどうか。

高橋副知事 同バイパスは、現道の渋滞対策や東関道、圏央道とアクセス強化のため、香取市から東庄町の8.7キロで整備を進めており、これまでに香取市側4.7キロを

下総橋停車場東城線

戸村議員 県道下総橋

停車場東城線の進捗状況はどうか。

高橋副知事 同線は東庄町を南北に通る、国道356号と東庄工業団地や旭市方面を連絡する重要な道路です。

現在、東庄町新宿地先から宮本

地先で、JR成田線を跨ぎ茨城県方面へのアクセスを改善する2.6キロのバイパス整備を進めています。



議場で県幹部に要望する戸村県議(後姿)

地域の声を真摯に受け止め